

平成 27 年 4 月 6 日

浜田市議会議長 原田 義則 様

議員名 笹田 卓



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので結果を報告します。

記

1、期間

平成 26 年 11 月 11 日～11 月 13 日

2、視察内容

○「サテライトオフィス誘致」について

NPO 法人グリーンバレー（徳島県神山町）

○「野球のまち推進課」事業、「婚活応援係」の設置について

阿南市役所（徳島県阿南市）

○「小さな漁村集落伊座利の取組」について

伊座利の未来を考える推進協議会（徳島県美波町）

3、参加者

小川稔宏 飛野弘二 笹田 卓 平石 誠
江角敏和 西田清久

4、調査経費

¥ 31,536円

5、調査研究活動の目的・概要（詳細は別紙）



調査研究活動

○「サテライトオフィス誘致」について

NPO 法人グリーンバレー（徳島県神山町）

徳島県神山町は、徳島市から約1時間、人口6000人余で高齢化率46%の過疎の町であるが、数年前には、転入者が転出者を上回っており、神山町に拠点“サテライトオフィス”を設ける企業も増えている。NPO法人グリーンバレーの大南信也理事長に、サテライトオフィスについてお話を伺った。

神山プロジェクト ～創造的過疎から考える地域の未来～

NPO 法人グリーンバレー理事長 大南信也理事長

- 創造的過疎とは、過疎化の現状を受入れ、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することで人口構成の健全化を図るとともに、多様な働き方を実現することでビジネス（仕事）の場としての価値を高め、農林業だけに依存しないバランスの取れた、持続可能な地域を目指すこと。

○ 神山プロジェクト

- ・サテライトオフィス（場所を選ばない働き方が可能な企業の誘致）

羽田空港から徳島空港まで60分、徳島空港から神山町まで60分という地理的要件もあり、ITベンチャー企業など11社が、サテライトオフィス設置・本社移転・新会社設立などで誘致された。

- ・ワークインレジデンス（仕事を持った移住者の誘致）

町の将来にとって、必要と思われる「働き手」「起業家」を逆指名して、商店街の空き家、空き店舗などを活用した起業を促し、町をトータルバランスでデザインする。

- ・神山塾（職業訓練による後継人材の積極的な育成）

厚生労働省所管の事業で、6ヶ月間の求職者支援訓練を行う。

「独身女性」「20代後半～30代前半」「東京周辺出身」「クリエイター系」（デザイン、編集、カメラワーク）などに絞った人材育成を神山塾で行い、2012年12月に開始し、現在6期77名が終了している。そのうちの約半数が移住し、サテライトオフィスで10名雇用している。また9組のカップルも誕生している。

浜田市でも取組める可能性があると感じた。廃校などを利用し、災害に強いまちをPRすることで場所を選ばない働き方が可能な企業の誘致の可能性を強く感じた。

○「野球のまち推進課」事業について

阿南市役所・JA アグリあなんスタジアム(徳島県阿南市)

「野球のまち推進課」事業について

野球のまち推進監の田上重之氏にお話を伺ったところ、2010年4月に全国初の「野球のまち推進課」を設置し、「野球をするなら阿南へ行こう！」をキャッチフレーズに“野球を資源とした地域戦略”を本格化し、野球と観光・地域文化を結び付けた「野球観光ツアー」、大学や高校野球部の合宿誘致、野球連盟や協会と連携し、西日本各地から参加する大会開催誘致と運営協力事業を展開しているとのこと。

また阿南市に県外チームの集客を図り、地域のにぎわい創出と経済的活性化、県外強豪チームとの交流戦観戦の機会提供など、野球を通じたまちづくりへ市民意識の醸成を図っている。

この事業に対する予算は、平成26年度、約1,300万円、対して年間宿泊者数は約3,000人、経済効果は約1億円とお聞きした。

昼食後は、実際の県外チームとおもてなしチームの対戦を見学した。

市民の自発的活動

- ・ ABO48 (阿南ベースボールおばちゃん60歳以上の略) 60歳以上のチアリーディングによる応援団が選手を応援して盛り上げる。
- ・ 大型トラックでPR 運送用のトラックの後部に「野球をするなら阿南へ行こう」の写真入りポスターを掲載し全国にPR。
- ・ おもてなしチーム 野球観光ツアー時に県外チームとおもてなしの精神で対戦し、試合を盛り上げる。

野球人として、本当に魅力のある取組だと感じた。浜田市には、野球場が多くあり、高齢者をターゲットとした野球の大会などをしても面白いと思う。近年、野球をする少年が激減しており、危惧している。野球に特化した取組は「野球王国浜田」でもやってみる価値はあると考える。

○「婚活応援係」の設置について

阿南市役所(徳島県阿南市)

阿南市は、人口約76,000人、30,000世帯で、安心して住める街ランキング全国19位、1人当たり市町村民所得が徳島県で1位である。

「婚活応援係」設置の背景については、市長の公約の一つでもあり、結婚するためには「結婚活動」が必要との認識から平成24年4月1日、ふるさと振興課に「婚活応援係」が新設された。

ふるさと振興課婚活応援係の大川康宏係長に話を伺ったところ、婚活事業の問題点は、実際にカップルが成立してもプライバシー等の関係から、その後結婚に至ったかどうかまでの把握が難しい。しかし、単にカップル成立や結婚だけが目的でなく、家にこもりがちな若者たちの交流を深め、自分の住んでいる地域の良さを自覚するきっかけとなることも大きなねらいの一つだとのこと。

行政が支援しての婚活については、まだまだ多くの課題があるように感じた。男女関係については個人の思いが強く、感情も絡むことから難しいと感じた。

○「小さな漁村集落伊座利の取組」について

伊座利の未来を考える推進協議会（徳島県美波町）

小さな漁村集落“伊座利”は、徳島県の南部、太平洋に面する美波町の最東端に位置し、入り組んだ海岸線と三方を山に囲まれ人口百人余り、漁業が唯一の産業で地域社会と経済を支えている。学校は、同じ校舎で学ぶ辺地2級の小中併設校、通称“伊座利校”がある。

徳島県海部郡美波町（伊座利漁業協同組合）草野組合長、伊座利校校長、伊座利の未来を考える推進協議会副会長に話を伺ったところ、過疎、少子高齢化で児童生徒数が減少し、統廃合は時間の問題となったが、「学校がなくなれば地域はますます寂れる」ことから「何とかできんか」と地域で山村留学制度の提案などを行政に行ったが、時間が過ぎても行政からの反応が鈍い状態が続き、“このままでは伊座利校がなくなる！”「なんとかせな！」と行政支援を諦め地域全体で立ち上がったとのこと。

伊座利流「漁村留学制度」を開始し、移住者の受け入れ方は、来てください、住んでくださいといった受け身の受け入れ方はせず、地域の一員となれる人（家族）を『面接』で決めている。全て自己責任で生活できる人（家族）が対象。伊座利流「漁師希望者の受け入れ方」伊座利で漁師になるための条件は、一人前の漁師になれるまでに最低でも3～5年かかることの自覚とその間は収入がない覚悟。その自覚と覚悟を持った人を面接で受け入れる。全国各地から転校してきた子供たちは、1～2年の短期間から定住希望まで、これまでに100人を超える。現在、移住定住している漁師は5名（内海女さん1名）いる。

本当にすごい所だと感じた。人がすごい。やはり人材が一番大切だと改めて思い知らされました。浜田でも人材育成に積極的に取り組んでいきます。